



令和2年1月1日発行

12月3日から12月19日まで行われた12月市議会定例会の最終日において議員からの提案で提出された令和元年台風19号災害からの復旧・復興に向けた決議及び「気候非常事態」に関する決議の内容と「採決結果」をお知らせします。

## 令和元年台風19号災害からの復旧・復興に向けた決議

「100年に一度」といわれる記録的な豪雨をもたらした台風19号は、河川の氾濫や土砂災害等により、千曲川流域の市町村にも甚大な被害を与え、尊い人命と人々の平穏な日常を瞬く間に奪い去った。

この災害により、不幸にも犠牲になられた方々のご遺族に対しては、謹んで哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての方々に衷心よりお見舞いを申し上げる次第である。

また、千曲市の被災に対し、職員派遣、救援物資、ボランティア活動、義援金等を通じて、格別なるご厚情、ご支援を賜った関係機関並びに関係各位には、深甚なる敬意を表するものである。

千曲市議会は、台風19号の災害を教訓に、「災害に強く、安全で心穏やかに暮らせるまち」の実現と市民が一日も早く平穏な暮らしを取り戻せるよう、復旧・復興に全力を傾注していくとともに、被災原因の徹底究明、総合的な治水対策の推進、被災者の生活再建という視点を中心に、下記事項の実施について強く要請する。

### 記

- 被災原因の究明に当たっては、被災地域の住民や専門家を交えて徹底した検証を行い、今後の防災・減災対策への的確に反映するとともに、千曲市の未来を見据えた復旧・復興計画を策定すること。また、災害対策本部における課題や改善点を整理・分析し、より実践的なマニュアルの整備や防災訓練、防災教育などの充実に生かすこと。
- 千曲川の堤防強化や河床掘削、遊水池の整備など、河川の強靱化に向けた総合的な治水対策について、国、県、流域市町村と連携して早期に取り組むを進めるとともに、市内すべての支流について安全性を検証し、必要な整備を行うこと。
- 被災者の生活再建に当たっては、常に被災者に寄り添い、きめ細やかで切れ目のない支援に努めること。また、地域経済活動を持続させるため、被災事業者に対しては、国・県の支援制度を補完すべく、市独自の支援策を講じること。

以上、決議する。

— 採決結果 —

全会一致で可決

## 「気候非常事態」に関する決議

世界の温室効果ガスの排出量は、今も増え続けている。そのため地球温暖化の進行に伴い世界各地では記録的な高温や豪雨など異常気象が頻発し、多くの被害が発生している。熱波による干ばつや森林火災、海面上昇は世界の島々を脅かし、巨大台風の発生はより高頻度になっている。

日本でも、これまでに無い猛暑や、巨大化した台風、集中豪雨など、各地で気候変動による異常気象が起り多くの被害が発生している。

わが市は千曲川の大河に抱かれ、四季を通じて豊かで美しい自然と景観に恵まれている。この自然に恵まれた市を、私たちは次の世代につないでいかなければならない。環境の行方は若い人たちに重くのしかかっている。過去に責任を持つ私たちは今こそ真剣に考えていかねばならない。

本市は災害の少ない市として知られてきた。しかし令和元年10月の台風19号は、穏やかであった千曲川を一変させ最高水位は氾濫危険水位の5mを1.4mも上回る6.4mに達し甚大な被害となり、貴重な財産や市民の平穏な暮らしが奪い去られてしまった。

地球温暖化に起因する気候変動は、世界中で危機感が広がり新たな枠組みである「パリ協定」が採択された。オーストラリア・デアビン市から始まり、現在は世界で1,200以上の自治体が、「気候非常事態」宣言を行い日本でも長野県などが宣言をし、脱炭素化を目指す取り組みが始まっている。

本市にとっても極めて深刻な脅威であり、雄大な千曲川の恩恵を受けてきた本市だからこそ、人間の生活や経済活動で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスをできる限り減らし、市民と共に気候変動に対して行動を起こさなければならない。

よって本市議会は、温室効果ガス排出量“実質ゼロ”を目指す運動を市民一体となって推進していくため「気候非常事態」を宣言することを強く求めるものである。

以上のとおり決議する。

— 採決結果 —  
全会一致で可決

### 千曲市議会だより

発行/長野県千曲市議会 TEL026-272-0199 (直通) FAX026-272-0765  
HP <http://www.city.chikuma.lg.jp> E-mail [gikai@city.chikuma.lg.jp](mailto:gikai@city.chikuma.lg.jp)  
発行責任者/千曲市議会議長 荻原光太郎 編集/議会広報特別委員会